さいき 市議会だより

No.76
令和6年2月

題字は佐伯豊南高校書道部２年
山内麻維さんと川野真愛奈さん
の作品です。

12月定例会は11月28日から12月20日までの23日間の会期で開催されました。

★ 市議会は、受付の名簿に氏名等を記入するだけで傍聴できます。お気軽にお越しください。
★ 市議会に関する情報は佐伯市のホームページから閲覧できます。 佐伯市議会 検索

令和4年度 決算　一部を除き認定

令和５年10月11日から13日までの3日間、決算特別委員会を開催し、令和４年度の佐伯市各会計の審査を行い、令和５年12月定例会にて、水道事業会計を除き、他15会計を認定しました。

▲詳細は市報１月号

※金額は千円以下切り捨て

一般会計 歳出総額　４５４億5,９３５万円

10億790万円 黒字

●歳入総額　４６４億6,７２５万円
●歳出総額　４５４億5,９３５万円
●経常収支比率は94.5%　→　前年度に比べ、1.7ポイント悪化しています。

市の借金 市債総額　４８７億5,４７１万円

29億8,944万円 減少

●市債残高は次のとおりです。
・一般会計：４３８億5,５０４万円（前年比２９億2,５８５万円の減）
・特別会計：　４８億9,９６６万円（前年比6,３５８万円の減）

市の貯金 基金総額　２４６億6,１９９万円

２億９１４万円 増加

●人口減少や社会構造の変化に合わせて、歳出を削減しなければ、基金を取り崩しながらの行政運営を余儀なくされています。
基金は各目的ごとに、処分の条件が明確に定められています。

一般会計及び特別会計決算について

委員会にて審査

●賛成討論（髙司政文議員）
全体的には賛成であるが、後期高齢者医療特別会計の保険料の引き上げ、マイナンバーカードについては問題がある。

本会議にて審議

採決の結果、原案のとおり認定しました。

水道事業会計決算について

委員会にて審査

●監査委員の審査報告
令和5年3月31日現在において、貸借対照表の流動資産の表示に含まれない水道料金未収債権が１６１件、５７８万８７３８円を保有している。不能欠損処理の条件に充足しないまま、簿外債権として管理されており、問題がある。

●反対討論（髙司政文議員）
水道料金の値上げ、また法律違反をそのままにすることは問題である。

●反対討論（河野豊議員）
法律違反である決算は認定できない。

●反対討論（山野内眞人議員）
監査委員の指摘を受けざるを得ない。

本会議にて審議

採決の結果、不認定としました。

決算額 278万円
（宝くじ助成金から200万円）

さいきオーガニックフェスタ2022が開催

・来場者数は約3,000人。

決算額 1,554万円
（市の一般財源：1,554万円）

全国乾しいたけ振興大会が開催

・２日間の来場者数は、約1万5,000人。

決算額 8,228万円
（市の一般財源：428円）

低所得子育て世帯へ生活支援

・対象児童一人につき、５万円を給付
・ひとり親世帯の支給世帯数：　632世帯
　対象児童：993人　支給総額：4,965万円
・ひとり親世帯以外分の支給世帯：　299世帯
　対象児童：614人　支給総額：3,070万円

決算額 5,962万円
（市の一般財源：１万円）

マイナンバーカードの交付

・交付実績
令和２年度：1万5,243枚（交付率21.6%）
令和３年度：2万4,124枚（交付率34.7%）
令和４年度：5万1,176枚（交付率74.9%）
令和５年10月末現在：6万7,126枚（交付率81.38%）

決算額 2億7,253万円
（市の一般財源　：１億7,590万円）
（バス使用料　　：　3,768万円）

市営のコミュニティバスを運行

・運行路線数：定時定路線18路線
　　デマンド線４区域
・運行距離　：398.4㎞
・運行便数　：４万833便
・利用実績　：15万2,681人
・平均乗車率：3.74人/便

決算額 1,394万円
（市の一般財源：334万円）

有機農業の人材、技術、消費者の理解、流通環境の整備を図る「有機の輪づくり」を推進

・有機農業に取り組む農家数
　令和２年度：２戸
　令和３年度：９戸
　令和４年度：25戸
・有機農業実践ほ場面積
　令和２年度：１.２ha
　令和３年度：８.８ha
　令和４年度：14.8ha

・有機栽培米の学校給食への供給
　11農家（５ha）で約10ｔ供給

決算額 594万円
（市の一般財源：594万円）

大正ロマンをモチーフとした衣装レンタル事業が、城下町観光交流館で始動

・利用者数：62人（10月～３月）

12月定例会の概要 こんなことを審議しました

11月28日から12月20日までの23日間で開催され、予算議案14件、予算外議案29件、専決処分の報告2件、及び請願1件が提出されました。

全て、原案のとおり可決・承認・採択されました。

＊請願についてはＰ６に詳細を掲載しています。

＊全て千円以下は切り捨て

補正額　23億2,127万円
（予算総額　486億1,915万円）

一般会計補正予算の主な事業

河川等維持補修事業

臼坪川の護岸復旧工事

3,496万円

▲補修箇所の現況

価格高騰重点支援給付金支給事業

電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ住民税非課税世帯等に対して１世帯当たり７万円の緊急支援金を支給

8億1,697万円

普通財産管理事業

旧マリンカルチャーセンター跡地の防塵対策

999万円

▲旧マリンカルチャーセンター跡地

障害福祉サービス費等給付事業

就労継続支援・グループホーム等の利用者の増加に伴う増額

1億4,382万円

総務常任委員会

予算外議案5件
全て可決すべきものと決す

宇目・蒲江(屋形島・深島)で市内全域での光化整備が完了

現在施工中の光化整備工事により、令和6年4月1日から、宇目・蒲江(屋形島・深島)エリアを対象とした光ケーブルネットワーク施設が整備される。

宇目・蒲江(屋形島・深島)は令和7年3月31日までの1年間を移行期間として、月額1430円を月額730円とする。

この事業により、佐伯市全域での光化整備が完了する。

質疑 料金などに関して市民から問い合わせなどはあったか。

答弁 苦情などの問い合わせはない。

質疑 光化整備に関して他に大きな事業はあるか。

答弁 大入島の架空光ケーブルの敷設替えと、事故により切断された大島架空光ケーブル修理がある。

建設経済常任委員会

予算外議案13件及び専決処分の報告1件
全て可決・承認すべきものと決す

道の駅の指定管理者決定

質疑 道の駅それぞれの指定管理の委託料の積算根拠は。

答弁 過去4年間の運営状況を精査し、コロナ禍や社会情勢を加味した。その状況により、前回と同様の金額が適当だと判断した。

施設名称 (指定管理者)	委託料 【令和6年度分】
道の駅やよい (佐伯海産株式会社)	2,500万円
道の駅宇目 (株式会社マルミヤストア)	800万円
道の駅かまえ (株式会社蒲江創生協会)	800万円

教育民生常任委員会

予算外議案11件全て可決、請願1件は最終的に採択すべきものと決す

国民健康保険税の一部を免除

政府において、子ども子育て支援充実政策の一つとして、産前産後期間における国民健康保険税の一部を免除するもの。

出産前1か月、出産当月、出産後2か月の最大4か月、多胎出産の場合は、産前の期間を3か月とし、最大6か月を産前産後期間として、出産予定又は出産した被保険者にかかる所得割額及び被保険者均等割額を減額する。

施行期日 令和6年1月1日

質疑 対象者はどのくらいいるのか。

答弁 現在の国民健康被保険者の出産件数は直近で12件であるが、そのうち該当となる11月の出産の方は1件となっている。

請願

学校給食費無償化と地場産食材の使用拡充を求める請願

請願の内容は

学校給食費無償化のため、市は必要な財源措置を講じること、財源措置を県・国に求めることを求める。
また、農業の振興を図るとともに、農林水産業に関わる地域の方々と連携して、安心安全な地場産給食食材の使用拡充を進めることを求める。

教育民生常任委員会にて審査

請願者による趣旨説明、髙司政文紹介議員からの補足説明後、執行部に意見を求め、審査を行いました。

質疑 PTAの意向はどうか。

答弁 今のところはまだ協力できないという返事であった。

質疑 財政負担について。

答弁 2億2000万円の経費が必要（幼稚園は除く）

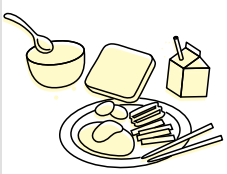
その他活発な質疑・答弁が交わされた後、大﨑副委員長から本請願については審査不十分のため継続審査を求める動議が出され、挙手多数で**継続審査すべきもの**に決しました。

本会議にて審議

起立採決の結果、起立少数で**継続審査しないこと**に決しました。

本会議を休憩し、教育民生常任委員会による審査が続行され、挙手多数により**採択すべきもの**に決しました。

本会議を再開。5名が討論ののち採決の結果、**採択**されました。



賛成討論 髙司政文議員

市長が無償化をやるという決意があれば、財源は財政当局が考えることであり、議会として市長に対し、意思表示をする絶好の機会である。

反対討論 大野達也議員

市の財源措置については、慎重な議論が必要である。
一度決定されれば戻すことはできない。ＰＴＡの中で意見がまとまっていない。時期尚早である。

反対討論 後藤勇人議員

学校給食は、国が主導して公平に行うべきである。
無償化を実施するために他の公共サービスが削られる可能性がある。慎重に行うべきだ。

賛成討論 廣津留龍二議員

栄養バランスの取れた食事は、義務教育の一環である。国が動かなければ、まず地方から行動することが大切だ。

賛成討論 上田徹議員

子育て世帯の負担軽減と子育てしやすい環境作りにもなる。人口減少の歯止めの一助にもなるし、県・国にも要望してもらいたい。

〔議員の表決態度の公表〕

※賛否が分かれた議案等について掲載しています。※議長（吉良栄三）は、通常の過半数議決には表決権がありません。

件名＼会派・議員氏名	議決結果	賛成（○）反対（●）	至誠会					さいき会					彗星会			志高会			新生会	公明党		佐伯を元気にする会		無会派			
			髙橋圭一	染矢和陽	廣津留龍二	梶川善寛	大﨑栄治	塩月健治	大野達也	冨松万平	河野豊		本杉貴志	戸髙秀世	本田房代	森三千年	坪根大吉	福嶋勝彦	御手洗秀光	上田徹	浅利美知子	後藤勇人	山野内眞人	井上清三	髙司政文	西條隆洋	吉良栄三
学校給食費無償化と地場産食材の使用拡充を求める請願を継続審査とする件	否決	10:11	●	●	●	●	○	○	○	○	○		●	●	●	●	●	●	○	欠	欠	○	○	○	●	○	議長
学校給食費無償化と地場産食材の使用拡充を求める請願	採択	17:5	○	○	○	○	○	●	●	●	●		○	○	○	○	○	○	○	○	欠	●	○	○	○	○	議長

第14回 議会報告会
「議員と語ろう会」

令和6年5月11日(土)から
19日(日)の期間で
各地域に伺います。

佐伯・佐伯東 / 大島 / 蒲江翔南 / 昭和

井上 清三

森 三千年

本田 房代

山野内 眞人

戸髙 秀世

染矢 和陽

渡町台 / 彦陽 / 米水津 / 直川

福嶋 勝彦

河野 豊

浅利 美知子

西條 隆洋

髙橋 圭一

梶川 善寛

上堅田・灘・木立 / 大入島 / 東雲 / 宇目緑豊

後藤 勇人

髙司 政文

上田 徹

塩月 健治

大﨑 栄治

廣津留 龍二

下堅田・青山 / 佐伯城南 / 鶴見 / 本匠

冨松 万平

御手洗 秀光

坪根 大吉

大野 達也

本杉 貴志

12月定例会において議決された指定管理者一覧

(単位：円)

施設名称	指定管理者となる団体	選定の方法	市からの委託料(令和6年度分)
佐伯市道の駅やよい	佐伯海産株式会社	公募	25,000,000
佐伯市道の駅宇目	株式会社マルミヤストア	公募	8,000,000
佐伯市道の駅かまえ	株式会社蒲江創生協会	公募	8,000,000
佐伯市特定公共賃貸住宅条例別表に掲げる特定公共賃貸住宅	大分県住宅供給公社	任意	14,573,000
さいき元気っ子クラブ	さいき元気っ子クラブ運営委員会	任意	9,900,000
にじの丘児童クラブ	にじの丘児童クラブ運営委員会	任意	11,800,000
切畑児童クラブ	社会福祉法人子ども未来ネット弥生	公募	11,400,000
なおかわ児童クラブ	なおかわ児童クラブ運営委員会	任意	9,900,000
めだか児童クラブ	めだか児童クラブ運営委員会	任意	23,600,000

一般質問

一般質問
12月5、6、7、8日

※一般質問の掲載について
　一般質問の記事は、議員の責任において、本人が質問・答弁の原稿を作成しています。その内容に相違がないときは原則として原文のまま掲載しています。
　なお、代表・一般質問の掲載順序は紙面の都合上、質問順とは異なります。

質問者	質問の要旨
大野　達也	・住宅確保要配慮者の支援について ・所有者不明猫への餌やりについて
梶川　善寛	・学校施設の在り方について ・学校施設の整備について ・子供の悩み相談について
染矢　和陽	・補聴器購入に対する助成について ・地域や家庭でともに支えあう教育の推進について
本杉　貴志	・小児初期救急について ・農作物の鳥獣被害対策としてのジビエ利用の推進について
髙橋　圭一	・予算編成について ・自転車活用推進事業について ・移住定住等の取組への支援について
大﨑　栄治	・外来生物防除について ・放課後児童クラブについて
髙司　政文	・第9期介護保険事業計画について ・こども誰でも通園制度（仮称）について
森　三千年	・有害鳥獣被害防止対策について ・国道388号畑野浦楠本バイパスについて
御手洗秀光	・小・中学校におけるいじめ防止対策について
廣津留龍二	・部活動の地域移行について ・振興局管内にある体育施設の管理・運営について ・第43回全国豊かな海づくり大会プレイベントについて
福嶋　勝彦	・市営住宅における浄化槽の維持管理について ・地区要望に対する令和6年度の予算編成について
塩月　健治	・養殖業者に対する支援について ・弥生井崎地区の内水対策について ・蕨野橋について ・市道高山元猿線について
西條　隆洋	・平常時の停電対策について ・本匠の小半鍾乳洞について
冨松　万平	・ライドシェアについて ・自動運転実証実験について
井上　清三	・生活保護制度と被保険者支援について ・公的年金生活者支援給付金制度について
浅利美知子	・不登校について ・ＨＰＶワクチン接種について
本田　房代	・さいき産品について ・地域コミュニティ協議会について
河野　　豊	・佐伯城（鶴屋城）跡について ・（仮称）大分南風力発電及び（仮称）四浦半島風力発電について ・女島埠頭について
山野内眞人	・弥生地域の活性化について ・特別職に対する懲戒処分及び退職手当の在り方について ・一般職職員の飲酒運転に対する懲戒処分の在り方について

住まいの確保に配慮が必要なひとにサポートを

大野　達也

問　「生活支援ハウス」が施設によって、空室が常態化している。対象者は「要介護認定を受けておらず、日常生活が概ね自身で可能な市内に住む65歳以上の一人暮らし・夫婦のみ世帯で、家族の援助を受けることが困難で、高齢等のため独立して生活することに不安な人」である。
　高齢者は増えている。要介護や生活保護に該当せず、身寄りもない立場で、山間部で容易な交通手段を持たずに孤立していたり、住宅の老朽化など、生活に不安を抱える高齢者のサポートも欠かせない。以上を踏まえ、空きが生じている「生活支援ハウス」の現状に対する市の見解は。

答　入所する施設については、本人・家族の状況及び意向により判断を行っている。

問　家賃の滞納、孤独死、近隣トラブル等のリスクにより、賃貸人に入居を拒まれ、住まいの確保が難しい人がいる。市営住宅は保証人が必要で、持ち家の場合は申込みすらできない。増加する民間の空き家への円滑な入居促進も求められる。市の見解は。

答　住宅セーフティネットの制度化には入居支援や、関係団体で構成する居住支援協議会の設立が必要であり、設立に向け今年度内に居住支援ネットワーク会議を開催する。

教育環境の改善へ向けて！

梶川　善寛

問　体育館におけるリースを活用した一括ＬＥＤ化、輻射パネルを併用した空調およびＷｉ－Ｆｉ環境整備の実施はできないか。

答　大きな課題は費用面と体育館空調を賄うだけの電源容量である。空調設置も電源容量増設も多大な費用がかかる。

今後は体育館照明のＬＥＤ化を優先し、整備手法を検討し工事とリース方式を併用して令和６年度から整備を行う方針である。

体育館の空調に関しては、輻射パネルによる方式は効果的であると考える。現在のところ整備予定はないが、方式の一つの検討材料として情報収集に努める。

学校Ｗｉ－Ｆｉに関しては、ほぼ常時接続が必要、又はリモート授業の可能性がある箇所を想定し令和３年度に整備済みである。使用頻度が少ないと思われる体育館については今のところ整備予定はない。

問　理科室や家庭科室などの特別教室の空調整備の実施を行う予定はないか。

答　現在稼働している空調整備は、普通教室、図書室、音楽室を対象として平成28年と平成29年に整備したもので、それ以降の整備は行なっていない。今後の体育館照明ＬＥＤ化による電力の低減にあわせて整備してきたいと考えている。

地域や家庭でともに支えあう教育は行われているのか

染矢　和陽

問　小中学校の段階で、児童生徒たちがその地域の歴史や文化を学び、地域への認識と愛着を培い、周囲との協力や連携を図ることで、コミュニケーションスキルを向上させることが重要だと思う。これにより、将来的に地域社会への貢献意識が芽生え、持続的な地域コミュニティ組織の強化につながると考えるが、地域の歴史や文化を学ぶ取り組みはどのようになっているか問う。

答　佐伯市教育委員会は、佐伯市長期総合教育計画において地域の「ひと・もの・こと」を活用した生活科、総合的な学習の時間の充実を掲げ、ふるさとを知り発信する「ふるさと教育」を推進している。

各学校においては、例えば、佐伯城南中学校で、「佐伯の魅力を発見しよう」というテーマのもと、市内の振興局を訪ね、各地域の施設を巡りながら、産業・歴史・文化等の観点から地域の特色について、聞いたり、質問したりする活動を行っている。

また直川小学校では、御嶽神社と樹齢４００年の直見杉の歴史や昔の様子を地域の方に聞き取り、ＩＣＴを用いた遠隔授業で、佐伯市内外の学校に紹介する活動を行った。

▲遠隔授業の様子

小児初期救急

本杉　貴志

問　現状の小児初期救急体制について市はどのように認識しているか。

答　本市の小児初期救急体制については、日曜日の10時から12時と平日の18時から19時までの時間で、３医療機関の輪番制方式により小児救急患者を受け入れる「小児初期救急体制整備事業」を実施している。

また、小児科における救急医療体制の充実のため、より専門的な処置が必要な場合等に小児科医が３６５日24時間で速やかに駆けつけ対応する「小児救急医療支援事業」を実施している。

問　佐伯市に住む子どもが、いつでも小児初期救急を受けることができる体制を構築するためには、どうすれば実現できると考えるか、市の見解を問う。

答　本市の小児初期救急における医療体制の整備については、医療機関や医師数についても限りがあるため、祝日や休日夜間の診療時間の拡大については容易でないと認識している。今後の医療体制の整備については、現状把握に努め事業内容の充実や啓発を図るとともに、乳幼児訪問時に配布している「小児救急ハンドブック」の活用を促進して参りたいと考えている。

令和6年度当初予算編成方針！

髙橋　圭一

問　令和4年度決算特別委員会にて指摘を受けた不用額等の活用及び来年度実施される減税、ふるさと納税制度の見直しによる影響を踏まえた、令和6年度当初予算編成方針について市の総合的な見解を問う。

答　令和6年度当初予算編成方針については本市を取り巻く社会環境の変化や財政状況が厳しい中、多様化する市民ニーズに応えていくとともに、物価高騰への対応策や人口減少及び少子高齢化に伴う人材不足など多くの課題が山積する中、一歩ずつ着実にその解決に向け取り組んでいく。

具体的には、総合計画に基づき、現在の社会情勢を踏まえた「シェアリング（連携・共有）、デジタル（DX）、グリーン（脱炭素・低炭素社会）」の視点を取り入れ、経済・社会・環境に配慮した取り組みを実施する。経済・社会面では「地域内経済循環」をめざした地域通貨の構築及び観光資源の発掘や誘客活動、情報発信などで地域の司令塔となる「観光地域づくり法人」を設立するとともに、環境面ではオーガニックシティの実現に向けたサイクルツーリズムや循環型林業の一層の推進を図っていく。

不用額等の活用については、精査を行い修繕等の要望の多い部局へ1億円追加配分することとしたほか、地方交付税やふるさと納税制度については、財政運営に支障を来すことのないよう、国や県に要望する。

生物の多様性を守るための外来生物防除

大崎　栄治

問　管理不全土地等における外来生物の繁殖・繁茂について、空き地等、管理のされていない敷地ほど外来生物が繁殖・繁茂している状況が多くみられる。不法投棄、害虫、鳥獣害、火事といったリスクが高いと考える。そこで、管理不全土地の近隣住民の安全確保に対する市の認識を問う。

答　御指摘のとおり、空き地等、管理のされていない敷地において外来生物が繁殖・繁茂することにより、不法投棄、害虫、鳥獣害、火事など近隣住民の安全確保に悪影響を及ぼす可能性が高まると思われる。本市はこれまでも、外来生物に対するお知らせは行ってきたが、今後は土地の適切な管理が外来生物の防除に対して重要であることを加えて、市民に向けて情報発信を行い、近隣住民の安全確保につなげていきたいと考えている。

▲セイタカアワダチソウ

▲その他に属している生態系被害防止外来種パンパスグラス

介護保険料・利用料の引き上げはやめて！

髙司　政文

問　令和6年度から3年間の第9期介護保険事業計画の重点的な課題を問う。

答　サロン等介護予防事業、さいきの茶の間事業、住民主体の通いの場の3つの通いの場は、目的や活動内容が類似しており、効果的な活用のため整理統合を図りたい。

問　第9期の介護保険料の基準額及び介護給付費準備基金の活用計画を問う。

答　現時点の試算では、年額約76464円、月額約6372円の見込みである。基金については、今後も給付費は増加し、被保険者は減少するため、一括ではなく、計画的に投入して急激な負担増を緩和したい。

問　老健施設など多床室への室料負担、利用料2割負担の対象拡大、ケアプランの有料化、要介護1・2の総合事業への移行についての市の見解を問う。

答　現在国において検討を行っているので、その動向を注視したい。

問　国費の負担割合の増額について問う。

答　全国市長会でも国費負担割合の引き上げを要望している。

有害鳥獣被害の現状と対策

森　三千年

問　有害鳥獣被害防止対策については、これまでもいろいろと対策を講じてきたが、農業者にとって安心できる状況とは言えない。今後どのように対策を進めていくか。

答　被害防止対策として、侵入防止柵の設置等の予防活動と捕獲活動に取り組んできた。その成果もあり被害額は減少傾向にある。しかし、耕作放棄地の増加や未収穫の果実や野菜が放置され、野生鳥獣が人家周辺に生息するようになった。被害を防止するためには、人の生活圏に近寄りにくい環境づくりが重要。地域ぐるみで取り組む必要がある。

問　捕獲班員の高齢化が問題であるが、農業者にも捕獲班員として活動することを勧めてはどうか。

答　新たな捕獲班員確保に向け、市報やホームページで有害鳥獣捕獲に関する情報発信を図っている。また、佐伯市猟友会を通じて、狩猟にかかる市や県の支援策のチラシを配布し、狩猟に興味のある方に声かけも行っている。こうした取り組みにより若い狩猟者は増加傾向にある。ご提言のあった農業者への働きかけも行いながら、狩猟者の確保に取り組んでいく。

「いじめ見逃しゼロ」に向けて

御手洗　秀光

問　小・中学校でのいじめの認知方法及び認知件数は。

答　佐伯市教育委員会では、「いじめ見逃しゼロ」を目標に校内いじめ対策委員会を中心に、積極的認知と組織的対応を徹底し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を進めるため、各学校に年間６回のいじめアンケートの実施と、市教委へいじめ対応報告書の提出を求めている。なお、いじめの認知件数については、小中学校の合計で、平成30年度１６７８件、令和元年度１３７０件、令和２年度１２１８件、令和３年度１２８３件、令和４年度６７４件となっている。

問　今後のいじめ防止対策は。

答　各学校では、自らの学校としてどのようにいじめ防止対策を行っていくのかについて「学校いじめ防止基本方針」を定め取り組んでいる。今後は、全ての教職員の共通認識を図るため、年に複数回、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題等に関する校内研修を行う。また、教職員が児童生徒と向き合い、いじめの防止等に適切に取り組めるよう、管理職をはじめ、生徒指導主事や各種主任等による学校マネジメント体制の整備を推進していく。

豊かな海づくり大会関連イベント鶴見で開催予定

廣津留　龍二

問　令和６年11月10日に、大分市及び別府市をメイン会場として、「全国豊かな海づくり大会」が開催される。佐伯市としても、同日にプレイベントを実施予定とのことだが、イベント内容及び開催場所等を問う。

答　令和６年11月10日に、天皇、皇后両陛下をお招きし、「第43回全国豊かな海づくり大会」が開催され、会場が「大分市ｉｉｃｈｉｋｏグランシアタ」、海上歓迎・放流会場は「別府湾」で行われる。

佐伯市では、同日に関連行事として、第１回豊かな海づくり大会会場である「鶴見松浦漁港」を会場として開催予定である。

内容は、一つ目に本会場との種苗の同時放流を行い、両会場に大型ビジョンを設置、相互中継を行う。

二つ目に、現在企画中ではあるが、第１回目の開催地として、43年前のレガシーを引き継ぐため、当時の記録映像の放映や写真展示を行うブースの設置を検討している。

佐伯市の魚を中心とした物産の販売、飲食物の販売、魚にまつわる各種アトラクションを計画しており、豊かな海づくり大会とあわせ、「魚のまち、水産のまち佐伯」をＰＲしていくこととしている。

地区要望に対応するために、令和6年度の予算編成はどうするの？

福嶋　勝彦

問　今後の地区要望に対する市の見解を問う。

答　地区要望事案は、担当課で優先度を判断し、当初予算要求を行い対応しているが、これ以外の年度途中に発生した緊急性、危険性の高い事案については、早急に対処するため、その都度担当課と協議し、必要に応じて予算措置等を行い、実施したいと考えている。

問　令和6年度の当初予算編成に当たり、本年度と比較して、枠配分の見直しを含め、どのように拡充し対応していくのか、その具体的な内容を問う。

答　枠配分の見直しは、令和4年度の各部局の決算額をベースに、不用額の多い部局の配分額を精査し、6年度予算については、その精査額を含めた1億円を修繕等の要望が多い部局へ、他の費用に使用することがないよう金額を示して、追加配分することとしている。

市道高山元猿線 令和6年度に対策工法調査へ

塩月　健治

問　道路の現状は。

答　市道高山元猿線は、国道388号と元猿地区とを結ぶ唯一の路線であり、水産関係の通行も多いことから、重要な路線と考えている。

元猿地区入口の通称鼻づらと呼ばれている箇所の積ブロック護岸や道路舗装面のひび割れが確認されたため、令和4年度から変状観測や路面補修を行っている。

問　トンネルの新設について地区要望が提出されているが、その検討状況は。

答　鼻づら部分の地区要望は平成21年から令和5年までほぼ毎年提出され、令和5年はトンネルの新設要望である。この要望についての検討状況については、引き続き変状観測を行いながら、令和6年度予算にて対策工法を含め安全性・経済性などを調査・研究し、整備手法について検討していく。

▲市道高山元猿線

どうなる？本匠・小半鍾乳洞 市長、そろそろ決断を!!

西條　隆洋

問　小半鍾乳洞の環境整備について問う。

答　県道小半橋架け替えにあたっては、小半鍾乳洞を訪れる観光客に配慮し、施行者である県と市の工事費の負担比率を記載した「県道三重弥生線小半橋工区道路改良事業に伴う歩道橋の施行に関する覚書」を締結し歩道橋建設に向け手続きを進めた経緯がある。

しかしながら、鍾乳洞入口付近一帯に更に落石の危険性があること、また、危険を回避し鍾乳洞への入場を再開するには鍾乳洞に至る新たなトンネルを建設する必要があることが判明した。そのトンネル工事費が膨大であるため、早期建設のめどが立たず、小半橋の歩道橋工事も未着手となった。

小半鍾乳洞の再開の際には、歩道橋を含めた周辺整備が望まれるが、現状では、多額の工事費（約3億7700万円）が必要であるため鍾乳洞自体の再開のめどが立っていない。

問　市道小半線について問う。

答　平成28年1月より全面通行止めを行っている区間については、市道廃止の手続きを進めていく。

ライドシェア（自家用有償旅客運送）導入検討を

冨松　万平

問　国のライドシェア議論を本市はどのように受け止めているのか。

答　本市のような過疎地域においては、ライドシェアが将来的な公共交通網の維持確保に向けた有効な手段となり得るため、導入の検討が必要だと考えている。

問　導入の際のメリットとデメリットは。

答　一般的なメリットは、公共交通を補完する手段であること。タクシーに比べ低額な料金設定であること。アプリを介してのキャッシュレス決済が多く、料金トラブルが少ないこと。本市においては、交通事業者の運転士不足の解消、財政負担の抑制、地域に根差した利用しやすいサービスの提供などが考えられる。デメリットはタクシー事業者の利用客の減少、安全性の確保、管理体制、事故時の責任の所在などがある。

問　ライドシェアは利用者と自家用車のマッチングサービスであり、タクシーと違い配車が確約されていない。共存が図られるようタクシー業界への配慮が必要では。

答　現在コミバス網もタクシー事業者なくして成り立たない。導入する場合はタクシー事業者の意見を賜りながら進めていきたい。

年金生活者支援給付金制度

井上　清三

問　１９６１年に国民皆年金制度が開始され、20歳以上の国民は誰でも年金に加入できる。「年金」は、老後にもらうお金と思うが突然の事故や病気で働けなくなるなど、若い時に起こる人生の危機にも備えている制度である。しかし、現状の物価高騰で基礎年金だけでは金額が少なく厳しい生活費と判断する。実は、年金生活者支援給付金制度が、令和元年10月１日から始まっている。

この年金生活者支援給付金は、国民年金、障害年金、遺族年金等、全てが対象となっており、年金等の収入や所得額が、基準額以下の方に、上乗せ支給と聞くが、夫婦別々に支給が受けられるのか現状を問う。

また、制度を知らず支給を受けてない人も聞く中で、日本年金機構からの連絡等で知ることは可能だが、対象者は、市民であり高齢者等である。周知徹底すべきと思うが、今後の取り組みを問う。

答　この制度については、支給要件に該当すれば、個人個人に支給されるので、夫婦別々に支給されることになる。それから周知の方ですが、今現在毎年９月の市報に掲載をしている。今後については、周知を徹底するため、市報への記載する回数の増加やケーブルテレビ等活用して、市民への通知の強化を図っていく。

不登校の子ども・親に寄り添った対応を！

浅利　美知子

問　文科省は、２０２２年度不登校の小中学生が過去最多の29万９０４８人であったと発表した。大分県も過去最多の３２８５人だった。市の状況と不登校の要因を問う。

答　病気以外の理由で年間30日以上欠席した児童生徒は、小学校は前年より７人増の41人、中学校は18人減の75人だった。また、不登校の要因は、無気力・不安、生活リズムの乱れ等が考えられ、本人に係る状況の割合が最も高い。

問　相談体制の状況を問う。

答　市教育支援センター教室グリーンプラザで児童生徒や保護者の支援を行っている。また、スクールカウンセラー６人、ソーシャルワーカー４人を学校に配置して、面談や家庭訪問等を行っている。

問　教育委員会主催で大分県初の取り組みとして「不登校を考える親の会」を開催しているが、実施状況を問う。

答　令和４年10月から開催し、延べ14人が参加し保護者同士が情報や悩みを共有し合っている。有意義な時間となるよう工夫を凝らし実施している。

さいき産品をしっかりPRしてる？

本田　房代

問　さいき産品は、令和2年10月から募集を開始し、現在45件の事業者により152品が登録されている。登録すると市が優先的に商品の紹介を行うなど事業者のメリットは大きいと思うが、登録者は決して多いとは言えない。そこで、現在の登録者数に関しての市の見解と、今年度実施した登録商品のPRと販路拡大の取り組みを問う。

答　登録数はまだ少ないと考えている。

福岡市の業務用スーパーやアンテナショップでイベントを開催し、さいき産品の販売や産品を使用した食事の提供を行った。

都内においてもイベント会場で宣伝したほか、現在、地域産品を専門に扱う店舗に「佐伯産品コーナー」を設け試験販売している。また、都内、福岡市、大分市から流通関係者や料理人を招き、産品の紹介や生産・加工施設の視察を複数回実施した。

問　現在、さいき産品を紹介する資料はなく何が登録されているか周知されていない状況だと思われる。今後の周知方法を問う。

答　職員が事業所を訪問し個別に案内をするとともに、市報で周知を図っているが、周知不足を感じている。今後はホームページへの掲載及びパンフレットやSNS等による周知も実施したい。

佐伯城（鶴屋城）跡の活用

河野　豊

問　史跡の正式な名称を問う。

答　国指定史跡「佐伯城跡（あと）」である。

問　史跡指定の範囲は山体全体で何㎡か。

答　指定面積は43万297㎡。

問　史跡全体の今後の活用についての見解は。

答　来年度から史跡「佐伯城跡」の保存活用計画の策定に着手する予定としている。その中で城山山頂部の雛壇状石垣や麓の三の丸など史跡佐伯城跡を構成する史跡それぞれの課題とそれに対する方針等を整理していく。国指定となったことを契機に、改めて市民にその価値を周知し、文化財への興味喚起を図り、市民に愛され市民とともに地域社会全体で継承していく気運の醸成を図っていきたい。

また、観光資源としての活用を推進していくため観光部局との連携を強化し、市内外へ積極的にPRしていきたい。

問　櫓門の正確な図面が有るのか問う。

答　本市が所有・保存しているものはない。

今後、大規模な改修等も必要と考えられるので、現在の技術を使い正確な図面を残すことを検討していきたい。

懲戒処分等の考え方は、間違っていないか

山野内　眞人

問　副市長などの特別職が不祥事を起こした場合、懲戒処分をするには、事前に「職員懲戒審査委員会」の審議が必要だが、佐伯市は、委員自体を選任していない。これでは、副市長等に懲戒処分ができないではないか。

答　全国的にも、県内でも、委員を選任している事例は少ない。前向きに検討したい。

問　一般職員が不祥事を起こした場合、退職手当は、全額不支給にできるが、副市長などの特別職は、減額になるだけで、ゼロにはならない。不公平ではないか。

答　副市長などが懲戒免職の場合には、一般職と同じ条例を適用し、全部又は一部の不支給とするから、特別職に軽くしているわけではない。懲戒免職以外の場合には、状況によって減額とすることにしている。

問　特別職だけ、減額で済まされるという規定があること自体がおかしいので、見直すべきだ。また、一般職の酒気帯び運転に厳しく望むのは分かるが、事故の有無にかかわらず、一律に免職とするのは、均衡を失している。もっと幅をもった考えをすべきだ。

答　現在の基準が妥当か、検討してみたい。

３常任委員会 行政視察報告

総務常任委員会

埼玉県三郷市
消防団の確保対策
・少年消防クラブ事業
・消防団の年額報酬と出動手当　他

全国過疎問題シンポジウムin富山
・地域社会の社会的活力を高める方策
・優良事例のパネルディスカッション　他

関東学院大学
防災・復興への基礎知識
・関東学院大学津軽石昭彦教授による議会BCPや事前復興の制度化などの研修

視察を受けた今後の動き
- 消防団の団員不足対策（所管事務調査）
- 人口減少について政策研究会への積極的提言
- 事前復興計画への提言

▲三郷市　庁舎にて

建設経済常任委員会

岐阜県各務原市
地域公共交通事業
以前から行っていた「ふれあいタクシー」の改良版として、「チョイソコかかみがはら」（ダイヤを固定しない、会員登録制による完全予約制）を導入。利用者数も年々増加。

▲各務原市　庁舎にて

岐阜県飛騨市
電子地域通貨さるぼぼコイン
飛騨信用組合がスタートさせた、地域通貨で最も有名な成功例と言われている「さるぼぼコイン」。飛騨市のみならず、市民の生活圏である近隣の高山市、白川村でも利用可能。推定登録者数は、2市1村に観光客を合わせると約29000人。飛騨市民の4人に1人がユーザーとなっている。

岐阜県多治見市
たじみDMO
以前と比較し、若手を中心に活動することで、意思決定や実行力、いわゆる機動力が向上した。また、売る・稼ぐという目的を明確にし、積極的な事業投資をする会社となった。

視察を受けた今後の動き
- 地域通貨導入への提言
- DMO設立に向けての提言

教育民生常任委員会

兵庫県加西市
子育て支援の取り組み
所得に関わらず、保育料の無料化、給食の無料化、医療費の無料化、おむつ等の無料化及び病児病後児保育の無料化を実施しており、これらを、「子育て応援5つの無料化」と題して、市のプロモーション戦略としても取り組んでいる。

大阪府堺市
ひとり親の就職支援
働くシングルマザーのうち、約半数が非正規雇用であることを踏まえ、ひとり親が就職や転職についてLINEで相談できるサービスを実施。朝6時から午前1時まで、オンライン等による相談が可能。あわせてスキルアップのためのセミナー情報についてのポータルサイトも運営している。

大阪府大東市
中学部活動の地域移行
今年度から剣道部とメディア部の地域移行を実施。専門指導者による技術の向上や社会性の育成が成果である一方、指導者確保や市の負担といった課題が生じている。

視察を受けた今後の動き
- 取り組みの視点を審査・調査に活かしていく

▲大東市　庁舎にて

発行 さいき市議会だより No.76 令和6年2月1日
佐伯市議会 〒876−8585 佐伯市中村南町1番1号
TEL 0972-22-4598 FAX 0972-24-0204
E-mail gikai@city.saiki.lg.jp
編集 広報委員会
HPアドレス https://www.city.saiki.oita.jp
印刷 二宮印刷

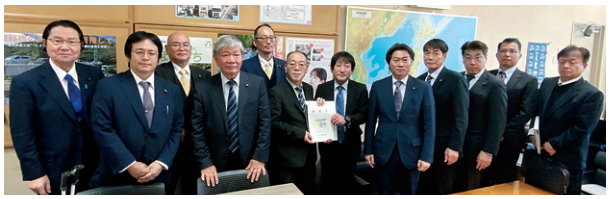
宇目緑豊小学校６年生の皆さんが議場見学に来ました

建設経済常任委員会
佐伯市の発展に向けて 国へ要望活動

要望事項

① 東九州自動車道「臼杵ICから佐伯IC間」の早期4車線化、及び休憩施設の更なる充実について

② 社会資本整備総合交付金、交通安全対策補助及び道路メンテナンス事業補助の拡充・道路整備事業の予算確保について



国土交通省に要望書を提出しました

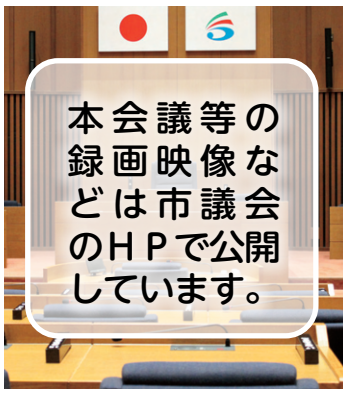
表紙の題字の作成者

佐伯豊南高校

山内 麻維さん　**川野 真愛奈**さん

佐伯豊南高校書道部の部員は２年生のみです。放課後の落ち着いた環境で、高文連主催の大会などに向けて作品制作に励んでいます。
また、10月に開催される文化祭（紫豊祭文化の部）では少ない人数ではありますが、書道パフォーマンスを行いました。今後も日々精進していきます。

次の議会定例会は
2月20日（火）～3月13日（水）まで開催予定です。
（代表・一般質問は2月27日～3月1日の４日間の予定です。）



編集後記

12月に青山地域コミュニティセンターで行われた秋の収穫祭へお邪魔してきました。天気も良く、多くの方が参加されていました。ステージでは鶴岡八幡・神子太鼓、太極拳、カラオケや舞踊披露などがあり、観客席もいっぱいでした。

餅まきもありましたし、出店では蒸しカキや青山ラーメンなど、大いに舌鼓を打ちました。秋の農作物販売コーナーでは青山産のお米や野菜などが彩り良く並べられていて、旬の野菜を使ったレシピの話や生産者さんの取り組みなどのお話を伺えました。

地球温暖化による天候の変化、災害、少子高齢化による生産年齢人口減少をはじめ、変化の激しい社会の状況ですが、こうやって地域の取り組みを拝見し、地域が持続的に成長する仕組み、地域がより輝く仕組みを創り出していくことで、地元地域に興味を持ち、応援する人が増え「未来の地域づくり」になります。行政と民間が一丸となって新たな佐伯市を創る時だと私は考えています。

戸髙　秀世